

2004年春、初の海外一人旅に挑戦してみた。挑戦の地は、「ミャンマー」。この響きから連想されるなんとも言えぬ神秘的な香り。。まあ現実的な理由は、海外なのに日本人に会ってはつまらない、というもので、まだそれほど開かれていないこの国を選んだのでした。

1日2日目は緊張しっぱなしで、人の親切も無下に断り、騙されないよう気を張っていたのだが、3日目くらいから、警戒心も調節が利くようになり、そこから私の素敵な旅が始まったのでした。

気の遠くなるような暑さ、歩いているだけで滝のように汗が流れ、穿いているジーンズが汗を吸って、脱げそうになるほど重くなる。暑さに耐え切れなくなると木陰で一休み。照り返しに目を細めるとそのまま寝てしまった。目を覚ますとそこにはイケ面の男の人がニコニコしながらアタシを眺めていた。とっさに荷物を盗られないか確認するが、すべて無事。そのままの人とくっいたらくったらおしゃべりして、夕飯までごっちゃん。デザートに、珍しい棒もおいしくいただきました。

ある日「熱帯植物を見るべ」と植物園へ行ったのだが、あるのは、パンジーやらマリーゴールドやら、日本の植物園と変わらない風景(大きさは、どれもこれも1.5倍ほどありました)。がっくりし

ながらも、そこにはミニ動物園なるものがあり、いろんな種類の鶏がいた。そのころ巷では鳥インフルエンザが騒がれており、ささやかなる防御で、息を止めながら鶏を観察していた。すると、「ニッペン？」と声をかけられ、振り返るとこれまたイケ面(ミャンマーフェイスは基本的にアタシ好み)。日本の経営している学校だかなんだかに通っているという。ふんふん、と耳半分で聞いていたら(あたしはイケ面よりも鶏が見たかった)、途中から口説きモード全開。なんやこいつ、と思いながらも、面白いので聞いてあげると、調子に乗ったヤツはあたしの乳を触ってきた。ちよい待ちー!!あたしのブラジャーには緊急時用の大金が入ってんだ!!もしもこいつにバレたら、身体目当てから、金目当てに変わるかもしれない!!思い、イケ面は惜しかったが、金をとられては元も子もないので、アタシ処女だから、とか、エイズだから、といろんな言い訳を並べてそそくさと逃げる。それでもしつこくついてくるので、「ウザインじや、ボケえろ!!」と大声で怒鳴りつけ、周りのミャンマー人もびつくり。やつと解放された。

またある日、15hの船旅をした。その船長さんに、「この船日本製なんだよ」「船長室見る？」と誘われて、船長だし、大丈夫だろう、と付いていたら、船長室で突然押し倒された。ぬをー!!誰かー!!...Somebody...やういまではいいが、次になんと言えればいいのかわからない。そのときパツと浮かんだ高校時代の例文をとっさに叫んだ。Somebody calls an ambulance! 冷静になって考えると、エーヤワディー川のご真ん中で「救急車呼んで!!」なんて全く持って

ワケワカメである。その内容を理解してか否かは不明ではあるが、とりあえず、厨房の男の子2人が駆けつけてくれ、貞操の危機を免れた。目的地に着くまであと10h以上もある。船長は悪びれもせずまたアタシに接近してくる。コイツ、エーヤワディー川に洗めたるーか、と本気で思った。日本じゃなかなか口にできないあらゆる暴言を、人目も憚らず並べ立て、少しスツキリした。(この後訪れたラオスでも、アタシのおっぱいを片手で揉みながら時速80kmのスピードボートを操縦していた船頭さんがいたので、棚瀬的統計では、「船男は危ない」という結論が導き出された。)

その後、無事目的地に着き、選んだホテルにもこれまた好色ジジイがいた。部屋を案内してもらっている途中で停電になり(ミャンマーでは電力供給が安定してないので頻繁におこる)、あれっ?と思った瞬間唇を奪われていた。。。この日はほんとうに踏んだり蹴ったりだった。

ホテル男に纏わるネタもたくさんあって、興奮冷めやらぬ第一日の夜、一目目だから、と奮発して\$10も払った(他は\$2~3の安宿で過ごした)ホテルで、夜中の12時、あまりの暑さに裸で寝ていると、なにやらカチャカチャという物音で目を覚ました。急に部屋の中が明るくなったと思ったら、ドアの隙間からフロントで見た男が立っているではないか!!とっさにシーツをかき集めて裸体を隠す。向こうもむこうで、あたしが裸でいたのに驚いたのか、起きていた事に驚いたのか、とにかくアタシ以上にビビっていた。「アイ、アイ、ア、ア、ア、アイム、ソーリー。」と扉の向こうに消

えていった。なんなんだべ?と、しばらく眠れなかった。それから、寝るときは常に自前の鍵やら細引きやらで二重に施錠し、さらにドアの前にいすや机を置いて寝た。

アタシが一番気に入った町は、ミャンマー第2の都市マンダレー。活気があって、一週間ほど滞在した。そこで泊まったホテルにもめさめさかわいい男の子(従業員)がいて、あたしが帰ってくると、「疲れてる? マッサージしたげよか?」などとかわい笑い顔で言ってくる。どこをマッサージするんじやっつと、ヤツの魂胆は読めているので軽くあしらう。ここには他にもおもしろい従業員(小学校のときの「中神くん」に似ていたので、アタシは勝手に「中神くん」と名づけていた)がいて、夜中に帰ってきて、フロントに預けたキーを受け取ろうとしたら、そのまま部屋まで案内しようとする。「ひとり鍵くらい開けられますからっつ」って必死で断ると、「ミャンマー語しゃべれるようになった? 教えてあげるよ。」(もう夜中の1時ですからっつ)、「部屋の電気のスイッチの場所わかる?」(昨日もおととも同じ部屋に泊まってますからっつ) 中神くん、しつこすぎるぞ。残念!!翌日、お友達になったミャンマー男と出かけていくのを、恨めしそうな目で見ていた中神くん、帰ったら、部屋のゴミ箱の中身がすべて床にぶちまけられていた。。。なんだか笑えてしまっ

た。
ま、とにかく楽しかった!ミャンマー!こんなくだらないことしか書いてませんが、素敵な思い出は独り占めしたいもので。今回は、部誌担当者次元のリクエストに答えて、下品な小話をピックアップ

してみました。